

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ながさきけんりつ ながさきひがし こうとうがっこう				②所在都道府県	長崎県
27～31	① 学校名	長崎県立長崎東高等学校					
③ 対象学 科名	④ 対象とする生徒数					⑤ 学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	長崎東高校 生徒数 840名 (長崎東中学校 生徒数 360名)	
普通科	280				440		
国際科		80	80				
⑥ 研究開発構想名		世界の「平和と共栄」を目指し、長崎から世界へ漕ぎ出す人材の育成					
⑦ 研究開 発の概要		長崎ならではの3つの視点（国際平和、医療支援、水環境）の1つからグローバルな課題を把握させ、その解決の手立てを考察させる課題研究を中心とした取組を行うことにより、日本及び世界の「平和と共栄」を目指して、グローバルな課題の解決に積極的に取り組むリーダーを育成するためのプログラムを研究開発する。					
⑧ 研究開 発の 内容等	⑧ -1 全体	<p><b>(1) 目的・目標</b></p> <p>古くからの海外との交流や、原爆被災からの復興という歴史に加えて、先導的な医学研究や環境保全の取組を展開している施設・企業などの長崎の持つ教育資源を活用した課題研究において、国際平和や相互発展を実現するための手立てを考察させる活動を通して、グローバルリーダーとして必要な以下の資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①世界の平和を希求し、人類の持続可能な発展に寄与する精神</li> <li>②日本への深い造詣を持ち、幅広く異文化を理解しようとする態度</li> <li>③グローバルな課題を自分のものとして捉え、その解決に向けて行動する力</li> <li>④責任感や協調性などを含むリーダーシップとフォロワーシップ</li> <li>⑤世界の人々に対して、自分の考えを効果的に伝える力</li> </ul> <p><b>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</b></p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本校の多くの生徒は、国際平和の実現を初めとするグローバルな課題をどう捉え、その実現のためにどのように行動すべきかについて、具体的なイメージを持っていない。</li> <li>②本校では個々の興味関心を掘り下げて自主的に学習しようとする姿勢に課題が残っている生徒が多い。また、企画力や行動力があり集団を牽引できる生徒は一部に限られており、多くの生徒はリーダー性を発揮できていない。</li> <li>③本校の多くの生徒は相手の主張を理解したうえで、自らの考えを明確に伝えることを苦手とし、さらに、自らの考えを国内外へ発信した経験を持つ生徒も多くはない。</li> </ul> <p>[仮説]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A. 長崎の持つ教育資源を通して、グローバルな課題を認識させ、国際平和や相互発展を実現するための手だてを考察させることにより、長崎（日本）に対する誇りを持ち、グローバルな課題を自分に関わることとして考察する姿勢が育成される。</li> <li>B. 課題研究において、目的に応じた調査・分析・ディスカッションなどをグループで行わせることにより、能動的に学ぶ姿勢や、自らの強い意志を持ちつつ他者と協力して課題解決に取り組む姿勢を育成できる。</li> <li>C. 課題研究を行う際の、大学や企業等の関係者とのコミュニケーション、日本語や英語による研究成果の論文作成、国内及び海外での研究成果のプレゼンテーションにより、世界の人々に対して自分の考えを効果的に伝える力が身につく。</li> </ul> <p><b>(3) 成果の普及</b></p> <p>積極的に学校訪問を受け入れ、生徒の実際の活動等を公開する。また、長崎県教育委員会と連携し、各種研修会や情報交換会等において成果の普及を行う。</p> <p>ホームページ、SGH通信、報告書などの媒体を利用して研究成果を広く普及する。</p>					

⑧-2 課題研究	<p><b>(1) 課題研究内容</b>          テーマを「世界の『平和と共栄』について、長崎とつながる課題を把握し、その解決の手だてを考察・発信する。」とし、高校1年では学年全員(280名)を対象とし、地元の教育資源を活用した長崎再発見を通して、長崎とつながるグローバルな課題を発見する活動を行う。2年生以降は、国際科の生徒(80名)を対象に、1年次に把握したグローバルな課題の解決に向けての方策を考察・研究し、長崎から世界へ研究成果を発信する取組を行う。          [生徒は下記の3つのグローバルな課題から1つを選択して研究]  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around;"> <span>●国際平和の実現</span> <span>●医療支援の推進</span> <span>●水環境の改善</span> </div>         (具体的な研究内容例)          「近隣アジア諸国との関係の在り方」「核兵器廃絶に向けて」「途上国への医療支援の在り方」「水質向上技術と海水汚染対策」等</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b>          学校設定科目「ナガサキタイム」、総合的な学習の時間及び特別活動の時間の中で、下記の&lt;Ⅰ&gt;～&lt;Ⅲ&gt;の取組を実施する。          &lt;Ⅰ&gt;長崎の視点からグローバル課題を考察させるプログラム開発(仮説Aに基づく)          S G H講演会、国内フィールドワーク、大学院教授・大学院生・留学生との意見交換会、海外の生徒との意見交換、海外フィールドワーク 等          &lt;Ⅱ&gt;グループ型探究学習のプログラム開発(仮説Bに基づく)          グループによる「仮説の設定→考察→評価・検証→提言」という流れの探究型学習 等          &lt;Ⅲ&gt;コミュニケーション力、発信力を育成するプログラム開発(仮説Cに基づく)          論文作成、国内及び海外でのプレゼンテーション 等</p> <p>検証評価は生徒へのアンケート及び連携をとった企業等からのインタビューやアンケートによって行う。生徒の活動評価に関しては、「長崎東高校S G H課題研究評価表」の観点別に評価を行い、各学年の評価とする。また、卒業時の進学状況の推移を調査し、グローバルリーダーとしての意欲や使命感を育むことができたかを検証する。また、論文をコンクール等に応募し、外部の評価を受けて検証する。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>          「社会と情報」の1単位分を学校設定科目「ナガサキタイム」で代替。(1年生対象)</p>
	⑧-3 上記以外
⑨その他 特記事項	<p>[S G Hアソシエイト校としての取組]          ①S G H課題研究に即して、学校交流に備えた事前学習として、長崎とイスラム文化をつなぎ相互理解を深める学習活動を実施          ②S G Hの活動を活性化させるため、平成27年度からの外国人常勤講師の配置を内定          ③海外でのプレゼンテーションのためのITE College East(シンガポール)との提携交渉          ④グローバルに活躍する起業家による講演会の実施          ⑤S G H指定校への訪問や大学におけるP B L研修会に参加し、そこで得た情報等を共有するため学期に1回程度の職員研修を実施</p>

ふりがな	ながさきけんりつながさきひがしこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	長崎県立長崎東高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	350 人
	SGH対象生徒以外:	100 人	120 人	人	人	人	人	人	320 人
目標設定の考え方: 8割以上の生徒が意欲的に取り組むものとして算出(海外語学研修を含む)									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	45 人
	SGH対象生徒以外:	2 人	9 人	人	人	人	人	人	5 人
目標設定の考え方: 留学生や海外の生徒との交流を通して、海外で学びたいと思う生徒が高1で10名、高2で20名、高3で20名として算出。(海外語学研修を除く)									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	5%	5%	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: SGH課題研究で身につけた見識を海外で試してみたいと思う生徒が8割になるものとして算出。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	32 人
	SGH対象生徒以外:	5人	5 人	人	人	人	人	人	5 人
目標設定の考え方: 大学や企業が主催する大会に応募して表彰を受ける生徒の数をSGH対象高2・3年の生徒の2割として算出。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	30%	30%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 国際科の生徒にはTOEFLの受験を必修とするため、その9割がそのレベルに達成するものとして考える。									
(その他本構想における取組の具体的指標)世界の「平和と共栄」のために積極的に行動したいと考える生徒の割合。									
f	SGH対象生徒:								100%
	SGH対象生徒以外:	1%	1%						20%
目標設定の考え方: 目標の1つである『世界の平和を希求し、人類の持続可能な発展に寄与する精神』が生徒たちに浸透すると考える。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	25%	25%	%	%	%	%	%	15%
目標設定の考え方: SGH対象生徒は現在の実績の3倍になると考える。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	6人
	SGH対象生徒以外:	1人	1人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: SGH対象の生徒(国際科)は各クラス3名として算出。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 課題研究を通じて自ら課題を発見し、その研究に関わる大学・学部を志望すると考える。									
大学在学中に留学または海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:								60人
	SGH対象生徒以外:	-	-						10人
目標設定の考え方: 卒業生の1/4以上が留学または海外研修への意欲を持つものとして算出。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 海外フィールドワークまたは海外プレゼンテーションに参加する生徒の数を設定。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	5人	5人	人	人	人	人	人	440人
目標設定の考え方: 課題研究を通じて国内のフィールドワークに携わる生徒の総数を設定。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	1校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方: 生徒同士の交流を行う海外の学校の数。(TV会議等も含む)								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	0人	人	人	人	人	人	146人
目標設定の考え方: 大学教員(30人×3回)、大学院生(18人×2回)、留学生の数(10人×2回)								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 企業や外部機関の講師を招き、課題研究や問題解決能力に関する授業等を行う回数を10人×5回で設定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数。								
f	5人	5人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 高校生国際フォーラムに毎年参加する5名に加えて、他の大会への参加を考慮して設定。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	2人	0人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 長崎県観光協会と連携しながら、現在1~2名を受け入れている体制を整備して、人数を拡大していく。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 成果普及のために、研修会等で最低年間5回の開催を確保する。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 国際科設置に伴い、平成27年度から整備をはじめ。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:		-	-				

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	840	840	0	0	0	0	840
SGH対象生徒数							440
SGH対象外生徒数							400